



# ツーリズムのリスタートを世界に発信

## 一般社団法人 日本旅行業協会 (JATA) 会長 ツーリズムEXPO ジャパン2022 実行委員会委員長 高橋 広行

日本観光振興協会、日本旅行業協会 (JATA)、日本政府観光局 (JNTO) は、「ツーリズムEXPO ジャパン2022」を9月22日から25日まで東京ビッグサイトで開催する。コロナ禍を経て東京開催は4年ぶり。ツーリズムEXPO ジャパン2022 実行委員会委員長をつとめる高橋広行 JATA 会長は、「コロナ禍を経て人々の価値観は大きく変化した。ツーリズム産業としてもさらなる進化が求められる」として、新しい旅のカタチ、ツーリズムの再出発を世界に発信する観点から、「新しい時代へのチャレンジ～ReStart～」をテーマに開催する。日本のツーリズムが真のリスタートを切るためには、G7並みの水際制限の撤廃が不可欠で、日本が再び世界に開かれたことをアピールする絶好の機会になるとする高橋 JATA 会長に、ツーリズムEXPO ジャパン開催への思いなどを聞いた。

### ツーリズムEXPO ジャパン、東京で4年ぶり開催 コロナ禍から再出発、新しい旅のカタチ発信

#### ■「ツーリズムEXPO ジャパン2022」の開催の目的や意義について

2年半以上にわたるコロナ禍を経て、ツーリズムEXPO ジャパンは2018年以来4年ぶりに東京で開催する。コロナ禍という未曾有の事態を経験し、人々の価値観も大きく変化した。時代が旅行に対して新しい価値を求めており、ツーリズム産業としてもさらなる進化を遂げる必要がある。そこで今回の開催テーマを「新しい時代へのチャレンジ～ReStart～」とした。

リスタートという言葉には、我々ツーリズム産業がお客様に提供する商品やサービスにおいても、これまでとは違う新しい時代にふさわしい価値を提供していく、新しい旅のカタチを発信する場にしたという思いを込めた。また、ツーリズムが2年半にわたり停滞していた中で、もう一度新たなスタートを切ることを日本のみならず世界に発信したい、ツーリズムの再出発という思いも込めて、リスタートという言葉を使った。

その点、今回のツーリズムEXPO ジャパンは、これまでのツーリズムEXPO ジャパンとは位置づけや意味合いはガラリと違うものにしていかなければならない。ツーリズム産業の新たな挑戦に向けて世界中の観光関係者がリアルとオンラインで一堂に会し、将来のツーリズムのカタチを東京から世界に発信し、復活・再出発の起点となるイベントにしたい。

#### G7 並みに水際制限の撤廃を世界に日本発信する絶好の機会

■日本の水際対策は未だに厳しい制約が残っているが、その扉を開ききっかけにしたいと考えか

その通り。私の正直な思いとしては、開幕までまだ日は残されており、それまで

に水際対策の制限が全てクリアになり、日本もG7並みに緩和された中で、それを世界に向けて大いにアピールをしていけたらと希望している。日本がこれだけ水際を制限している中で、ツーリズムのリスタートだと言ってもやはり説得力に欠ける。

日本は未だに半鎖国状態。なかでも入国者数の上限とビザの問題は大きい。これらを全て撤廃するよう引き続き政府に求めていく。なんとかEXPOに間に合わないかというのが希望だ。そうすれば、日本が世界に向けて堂々と新たなツーリズムのリスタートをアピールできる。

日本政府はG7並みの水際緩和を世界に公言した。世界のツーリズム関係者が集まる場で、日本が高らかにG7並みの水際緩和を発信できれば、絶好のアピールの機会になる。

#### ■9月7日からは日本入国・帰国前のPCR検査が撤廃され、海外旅行に行きやすくなった

これは大きな前進だった。日本への帰国前検査は海外旅行の最大の障壁だったので、需要回復が期待される。一方で、インバウンドについてはビザが免除されない限り本格的な回復は難しい。添乗員なしのパッケージツアーは可能になったが、ビザが最終的なバリアになっている。

ツーリズムEXPO ジャパンをきっかけになんとか日本の水際制限の緩和、撤廃につなげ、国際往来をリスタートさせたい。

#### 円安が追い風も訪日ビザの壁 MICE 逸失、クルーズも厳しい

■水際の制約は、インバウンドをはじめ多方面に大きな影響を与えている

これだけの円安、しかも日本に行きた



いという世界的な需要がある中で、日本が国を閉ざしているのは本当に残念。忸怩たる思いがある。インバウンドでは日本離れが進んでいる実態もある。

グローバル MICE もどんどん日本をスキップしている。日本に下見に来られず、開催の判断ができず、日本での開催を諦めて他のアジア諸国などに流れている。BtoCと違い、イベントやMICEは一旦受注を逃してしまうと代替が効かない。開催地の決定も早く、1年先や2年先、場合によっては3年先までグローバル MICE が日本に来ない。日本が失う経済効果の額も桁違いに大きい。

クルーズの問題も大きい。日本のクルーズ市場は有望な成長マーケットであるにも関わらず、現在は検査のリソースが空港に集中しているため、外航クルーズが実施できず、国内クルーズのみが運航している状況だ。クルーズは地方経済に与える影響が極めて大きい。クルーズマーケットそのものが厳しい状況に立たされている。

ビザの問題、入国者数の上限の問題にしても、明確な納得のいく理由、科学的根拠を示すべきである。

#### 『ツーリズムは永遠に不滅』潜在的な旅行へのニーズ健在

■ツーリズムEXPO ジャパンは三位一体の旅行イベントとしてその重要性が増している

コロナ禍の2年半で、国内旅行も海外旅行も訪日旅行も、全ての旅行需要を失ったと言っても過言ではない。ただ、改めて再認識したのは、目の前の旅行需要は失われたものの、潜在的な旅行に対するニーズは決して失われていないことである。私は『ツーリズムは永遠に不滅だ』という思いを新たにしたい。

それは様々なアンケートや調査にも表れている。コロナが落ち着いたらやりたいことの筆頭に海外旅行や国内旅行が挙げられている。また、世界経済フォーラムの観光競争力ランキングでは、日本が初めて世界ナンバーワンになった。それだけ日本に対して期待はある。国内外からの旅行に対する期待が高まっているまさに今、本格的な国際交流を開始し、今後の日本のツーリズムの発展に向けて三位一体の総合的なイベントを開催することは非常に大きな意義がある。

今回のツーリズムEXPO ジャパンには、国内から全47都道府県、海外から70か国以上が出展する。日本政府観光局

(JNTO) の「VISIT JAPAN トラベル&MICE マート」にも未だにビザが必要ながらも50社の訪日バイヤーが来日する。

ツーリズムEXPO ジャパンに寄せられる期待は非常に大きい。だからこそなんとしてでも成功させなければいけないと思う。

#### MICE はリアルとオンライン融合 注目フォーラムは世界同時配信

■ウィズコロナ、ポストコロナ時代のMICE イベントのあり方については

コロナ禍でMICE 需要も一旦消滅し、オンライン MICE が生まれたが、やはりオンライン MICE には限界がある。ビジネスについてはフェイストゥフェイスによるリアルな商談でないと難しいとの声は多い。一方で、時間や場所、キャパシティに関係なく世界中とコンタクトがとれるオンラインのメリットも大きい。そこで今回のツーリズムEXPO ジャパンは、リアルをベースとしつつ、オンラインのメリットを活かしたハイブリッド形式で開催する。リアルとオンラインが融合したMICEはこれからの主流になっていく。

具体的な仕掛けも色々としている。一つは、出展者情報について、ツーリズムEXPO ジャパンの開幕前から動画と画像で見ることができるようになった。来場者は開催前から出展者の情報を収集できる。また、6月から12月まで公式サイトを通じてプロモーションを行える仕組みを導入した。これによりイベントの波及効果と持続性を高める。さらに、注目度の高いフォーラムやセミナーについてはYouTubeで同時配信を行い、オンラインを通じて世界に情報発信する。

コロナ禍を経て、一般消費者はもちろん、協賛者や出展者の価値観も変化している。そのため、来場者、オンラインによる参加者の双方に価値を提供していきたい。

#### SDGs は避けて通れない 脱炭素、脱プラ、フードロスも

■SDGs、持続可能な観光に対するツーリズムEXPO ジャパンの役割は

SDGs やサステナブルツーリズムは避けて通れない。観光先進国の取り組みは日本より数歩先を進んでおり、そこをキャッチアップできるよう、ツーリズム



4年前に東京で開催された「ツーリズムEXPO ジャパン」の展示場風景

# 「ツーリズム EXPO ジャパン 2022」いよいよ開幕 全47都道府県、世界70カ国以上から出展



(2面からの続き)

EXPO ジャパンでは多くのプログラムや講演にその要素を取り入れた。フォーラムのテーマを「観光による気候変動への挑戦」として、気候変動に対して観光の果たすべき役割について議論する。基調講演では定期航空協会会長で全日本空輸(ANA)社長の井上氏に「“さあ未来の空へ”持続可能な航空業界への挑戦」と題し、航空業界の脱炭素に向けた取り組みについて講演いただく。

今年で5回目となるTEJ観光大臣会合も注目だ。8カ国の観光大臣と4つの世界観光機関の代表者が参加し、気候変動問題について各国の観光分野における取り組みとあわせて議論を行い、その模様を世界に向けてライブ配信する。JNTOや日本観光振興協会でも、サステナブルツーリズムやSDGsをテーマとしたシンポジウムを開催して議論を深める。

SDGs目標の達成に向けて、ツーリズムEXPO ジャパンとしても、グローバルな視点での情報発信、出展者を通じた社会貢献、一般消費者への啓発という3つの視点で取り組みたい。会場内では出展者と来場者が一体となってSDGsへの意識を高めてもらえるよう、「観光SDGs・デジタルスタンプラリー」を実施する。また、我々自身もSDGsを意識したイベント運営に取り組み、常設のライトを除いて特設のライトは全てLEDを採用し、キャッシュレス決済の推進やデジタルツールの活用などにより、持続可能なMICEをめざす。

■日本ではSDGs、サステナブルツーリズムへの取り組みは端緒に付いたばかりだ

日本でも意識は高まっているが、世界のSDGsへの取り組みはかなり進んでいる。今後、日本でもSDGsを意識した商品、サービスを提供していくことは不可欠だろう。脱炭素の問題は待たなし。脱プラスチックに加えて、フードロスの問題もある。観光業界全体で連携し、いかにフードロスを減らしていくかはまだまだ工夫の余地がある。脱プラスチックに取り組む宿泊施設や、旅行会社でもカーボンオフセットの商品などが発売され始めている。地球環境を考えた取り組みを連携して進める必要がある。

## 23年EXPOは大阪・関西で開催万博のキックオフへ盛り上げ

■来年は再び大阪を開催地として「ツーリズムEXPO ジャパン2023大阪・関西」が開催される

来年のツーリズムEXPO ジャパン2023は、2019年以来4年ぶりにインテックス大阪で開催する。会期は2023年10月26日から29日まで。

「ツーリズムEXPO ジャパン2023大阪・関西」は、2025年に開催される大阪・関西万博に向けたキックオフの意味を込めて開催する。大阪・関西の関係者はその点でもやる気満々で、前回の2019年開催時の来場者15万人を超えるイベントにしたいと考えている。非常に心強く、一緒に成功させたい。

ツーリズムEXPO ジャパンは東京だけでなく、大阪・関西で開催することに非常

に大きな意義があると思っている。東京と大阪とでは文化が全く違う。世界に向けて日本の多面的な魅力を発信する意味でも、東京だけでなく大阪で開催する意義があると思う。

## 新しいツーリズムのカたち提案 再び旅行を楽しんでほしい

■ニューノーマル時代の新しいツーリズムのカたちとは

コロナ禍を経て、人々の生活様式は大きく変化した。安心・安全に対する意識は非常に高まった。ツーリズム産業としても、ニーズの変化に対応した商品、サービスを提供していく必要があるほか、体験価値を高めていくことが必要だ。

例えばアドベンチャーツーリズムは、ウィズコロナ、アフターコロナにおける非接触や密回避、サステナブルツーリズムの観点からも、新しい旅のカたちの一つだと思う。ただ、日本にもアウトドアアクティビティはあるが、体験素材としての販売が主流で、まだまだ付加価値や単価アップの可能性がある。例えば欧米では、川下りなどの体験にネイチャーガイドの説明を組み合わせたり、地元ならではの食材を使ったサービスなどの楽しさを付加することで、アドベンチャーツーリズムの高付加価値化と単価アップを具現化している。

アドベンチャーツーリズムは、世界に70兆円以上とも言われる大きな市場がある。今回、ツーリズムEXPO ジャパンではアドベンチャーツーリズムのコーナーを設けてアピールを行う。また、来年には北海道でアドベンチャーツーリズムの世界サミットが開催され、世界のアドベンチャーツーリズムの関係者が一堂に会する。この絶好の機会を活かして日本におけるアドベンチャーツーリズム市場を活性化



させていきたい。

■最後にツーリズムEXPO ジャパンに来場する一般消費者の方々にメッセージを

2年半にわたり、旅行需要そのものが壊滅的な打撃を受けて、旅行に行きたくても行けない状況が続いてきた。この2年間、ウィズコロナの生活をしてきたが、世界はいち早くウィズコロナに舵を切り、そのなかで旅行や観光を楽しんでいる。日本のお客様にも、ウィズコロナの対策を講じた上で、国内旅行のみならず海外旅行も楽しんでいただきたいと思います。

コロナ禍では若年層の国際交流はストップし、海外ハネムーンや海外ウエディングを断念せざるを得ない方も多くいた。世界中のデスティネーションが日本人旅行者を待ち望んでいる。コロナを正しく理解し、適切な対策をとったうえで、再び旅行を楽しんでいただきたい。



## 「ツーリズムEXPO ジャパン2022」フロアマップ



# ポストコロナの観光復活へ EXPO に期待

国内の移動制限や海外との水際対策の緩和により、日本の観光・旅行マーケットが少しずつ回復に向けた動きが見え始める中で、観光庁は観光・旅行に対するマインドの変化や新たな市場創出への動きに対応するために、さまざまな政策に取り組んでいるところだ。

そうした状況の中で2年ぶりに開催されるツーリズム EXPO ジャパンでは国内外の観光関係者が一堂に会して、ポストコロナ期の観光復活に向けて活発な交流が行われることになっている。ツーリズム EXPO ジャパンに期待することや今後の国内外における観光を取り巻く動きなどについて、観光庁の星野光明国際観光部長に聞いた。

## 新たな交流市場開拓で地域活性化を 持続可能な観光実現へさらなる磨き上げ

■コロナ禍で日本の観光を取り巻く状況が変化した、現状認識について

新型コロナウイルスの感染拡大で日本の観光を取り巻く状況は大きく変化し、2020年からの2年間は大変な状況が続いた。最近の状況については国内旅行について見ると、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの発出がなく、久々に移動制限がなかった今年のお盆期間を見ると、鉄道・航空便とも前年の約2倍増の利用状況となった。

また、水際対策が緩和された国際旅行を見ると、お盆期間中の国際線利用者数は前年から約4倍増となった。中でもハワイ線についてはピーク時にはほぼ満席の状況となったと聞いており、久しぶりに海外旅行を楽しんだ旅行者もいたようだ。そうしたことから2021年から見ればやや明るい兆しは見られた。

しかし、コロナ前からの比較ということになると、国内の鉄道・航空便の利用は約6~8割程度、大手旅行会社の旅行商品販売においては約5割程度にとどまっている。また、国際旅行についても7月の訪日旅行者、出国日本人数ともにコロナ前の1割程度と低迷しており、まだまだ十分に回復しているとは言い切れない状況だといえるだろう。

■この2年余りで、旅行者の意識も変わってきたが

コロナ禍を経て、混雑や密を回避し、自然環境に触れる旅行へのニーズも高まっている。また、働き方の変化なども踏まえ都市部から地方への転出や移住への関心も高まってきた。さらに、若年層の中には「田舎」に対して何らかの関わりを持つ動きも増加傾向にある。

### ワーケーションや 第2のふるさとづくり推進

■旅行需要の変化を踏まえ、観光庁も新たな取り組みに乗り出している

観光庁では、国内旅行における需要の変化を踏まえ、ワーケーションや、何度も同じ地域を往來する、いわゆる「第2のふるさとづくり」といった新たな旅のスタイルの普及や定着を図る取り組みを推進している。

ワーケーションの推進については、地

域と企業・個人との交流を通じて、関係人口や交流人口の拡大につながるなど、地方創生に資する取り組みであると期待している。

今後は地域と企業双方においてモデル実証事業などを通じて、ワーケーション普及に向けた取り組みを支援していくことにしている。

第2のふるさとづくりについては、二地域・多地域居住や移住の推進にも資するものであるととらえている。今後はどのような形で地域が旅行者と関わっていくべきなのか、また移動の足の確保や、柔軟な滞在環境づくりの実現に向けてモデル事業などを通じて普及を後押ししていきたいと考えている。

これらの取り組みを通じて新たな交流市場の開拓を推進することで、地域活性化につなげていきたい。

■観光分野の新たなキーワードの1つとして「持続可能性」が挙げられている

コロナ禍を経て、世界の旅行者の意識が変化し、サステナブル(持続可能)な旅行を楽しみたいと考える人が増加している。観光分野における「サステナブル」には、できるだけCO2を排出しない旅行形態の構築だけでなく、地域の関係者が一体となって、自然環境や文化、地場産業などの保全と観光を両立させる取り組みなどさまざまな視点がある。

このうち、持続可能な観光地域づくりの実現には、オーバーツーリズムの未然防止、地域資源の保全・再生などを通じて、旅行者・地域住民双方にとっての好循環を生み出し、自立・自走できる「住んでよし」「訪れてよし」の地域づくりを進めることが必要だ。

観光庁では持続可能な観光地域づくりの促進に向けて「日本版持続可能な観光ガイドライン」を策定した。これの実践・普及を通じて地域を持続可能なマネジメント体制の構築を支援するとともに、サステナブルな観光コンテンツの強化に向けた支援を行っている。

一例として、富山県の砺波平野では散居村の美しい農村景観と自然が共存する暮らしが実現しているなど、サステナブルツーリズムのコンテンツの磨き上げに向けた取り組みが行われている。今後もそうした優良事例の構築や地域の人材育成を集中的に支援し、日本ならではのコンテンツ造成に取り組み、世界に誇れる持続可能な観光地域づくりを進めていき



## 観光庁 星野光明国際観光部長に聞く

### 訪日旅行復活へ世界に日本の観光魅力を発信 観光の復活・再生へのリスタートを応援

たい。

#### 世界に誇れる 魅力的な観光地域作りを

■ツーリズム EXPO ジャパンとの併催で「VISIT JAPAN TRAVEL & MICE マート(VJTM)」が久々のリアル開催となる

VJTMは世界中の旅行会社と日本各地の自治体・DMO、観光事業者が集う国内最大規模のインバウンド商談会だ。今回は久しぶりのリアル開催で海外から50社が来日する。さらにオンラインでも170社が参加すると聞いている。VJTMはインバウンドの復活に向けて、日本の観光魅力を直接PRすることができる貴重な機会であると捉えている。

■改めてインバウンド復活に向けて、世界にどのような点を訴えていきたいのか

コロナ禍を経て、海外の旅行者のマインドやニーズが変化している。特にポストコロナ期において注目が高まっているサステナブルツーリズムやアドベンチャーツーリズムなど付加価値が高い観光コンテンツをアピールしていく。さらにインセンティブ旅行関連の新たな素材として屋外・半屋外のオープンエアで食事を楽しむことができるコンテンツや座禅体験などの心を満たす「マインドフルネス」など特別感のあるコンテンツなどについて今回のVJTMやツーリズム EXPO ジャパンなどを通じて発信することができればよいと考えている。

9月7日から水際対策が緩和され、入国者総数の引き上げが行われたほか、すべての国・地域を対象として添乗員を伴わないパッケージツアーの受け入れが認められることとなり、非常に良いタイミングでツーリズム EXPO やVJTMが行われることとなる。これには弾みとしてインバウンドのさらなる回復につながることを期待している。

#### 世界から魅力ある素材紹介 アウトバウンド活性化にも期待

■ツーリズム EXPO ジャパンでは世界各国の観光大臣などが来日予定となっているが、どのような交流を期待しているか

コロナからの国際旅行の回復に向け、各国と日本との友好関係の構築につな

る観光交流の推進はより一層重要になると考えている。今年のツーリズム EXPO ジャパンでは2019年以来3年ぶりに観光大臣会合が開催されるほか、世界から約80の国・地域から出展されると聞いている。

大臣会合や会場で開催されるフォーラムやセミナーでは気候変動やサステナブルに関する議論が行われることになっている。また、国際旅行の回復に向けて情報交換のチャンスであると捉えている。

さらに、世界各地からのブース出展により、海外の魅力ある観光コンテンツが多数紹介されることから、アウトバウンドの魅力も発信されることになっており、ツーリズム EXPO ジャパンを契機として、双方向の国際交流が一層推進していることを期待している。

■今年のツーリズム EXPO ジャパンのテーマは「リスタート」。改めて国内の観光関係者に対してメッセージを

改めて観光関連の現状を見ると、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況に置かれている。これに対して観光庁としては県民割支援を9月末まで実施することを決定しているが、感染状況の改善が確認できれば速やかに全国旅行支援を実施できるよう準備をしている。

一方でインバウンドについては水際対策の緩和で全世界から外国人観光客の受け入れが再開されるなど、さらなる回復が期待される。

そうした状況の中でツーリズム EXPO ジャパンが2年ぶりにリアル開催されることは大変ありがたく、うれしく思っている。

ツーリズム EXPO ジャパンのテーマは「新しい時代へのチャレンジ～Restart～」であると聞いている。旅のスタイルの変化などを踏まえつつ、ポストコロナを見据えて国内外の旅行意欲をしっかりと取り込む観点から「リスタート」というテーマは非常に意義深いものであると考えている。

期間中は国内外から多くの観光関係者が出展するとともに、ポストコロナに向けたさまざまなシンポジウムや商談会が多く開催されることになっている。また、セミナーやシンポジウムは非常に興味深い内容のテーマが多く楽しみにしている。

観光庁としても今回のツーリズム EXPO ジャパンを通じて、観光の復活、再生に向けた「リスタート」を切ることができるよう応援していきたい。



ポストコロナ時代の新たな観光のカタチを官民一体で実現へ



待ちに待った台湾旅行。日本と台湾の水際対策が緩和され、台湾へ旅行に行ける日はもう目前だ。行くたびに好きになる、何度でも行きたくなる台湾。そんな台湾への再訪と再会への思いを込めて、台湾観光局では「いくたび、ふたたび台湾。」キャンペーンを展開中。懐かしくて新しい台湾との再会に備えよう。

いくたび、<sup>ら</sup>台湾  
ふたたび

Taiwan 台湾観光局  
THE HEART OF ASIA

WEBでも  
詳しく紹介中!



やりたいこと、  
ぜんぶ  
台湾



# いくたび、ふたたび台湾

## 懐かしく新しい台湾との再会に備えよう!

待ちに待った台湾旅行の再開にむけていよいよカウントダウンが始まった。台湾観光局では、その日に備えて様々な準備を進めており、「いくたび、ふたたび台湾。」キャンペーンを展開中。台湾のエネルギッシュな街並みや美しい自然は変わることなく、観光地はさらに磨きがかけられ、思い出の味、忘れられない笑顔が日本からの旅行者の再訪を待っている。待ちに待った台湾旅行。あなたはどんな旅を楽しみますか。

### ポータルサイトで最新情報を発信中 ワンストップで台湾旅行の情報収集

台湾観光局ではポストコロナの台湾観光旅行の再開に向けて、「いくたび、ふたたび台湾。」キャンペーンを展開している。行くたびに好きになる、何度でも行きたくなる台湾への再訪と再会への思いを込めて、ハートマークと飛行機を組み合わせたロゴマークを採用した。

ワンストップサイトでは、台湾への渡航情報や観光トピックスなどを紹介している。また、発売中の台湾ツアーや航空会社の運航状況がすぐにチェックできるよう、旅行会社や航空会社のウェブサイトともリンクしており、ワンストップで台湾観光に関する最新情報が収集できる。

「いくたび、ふたたび台湾。」のポータルサイトで最新情報をGETし、台湾旅行に備えよう。

「いくたび、ふたたび台湾。」  
ワンストップサイト  
<https://go-taiwan.net/ikutabi/>



### 台湾観光再開でスタートダッシュ! 解禁直後のツアーをチェック

「いくたび、ふたたび台湾。」キャンペーンでは、旅行会社向けのサポートプログラムを用意し、様々なテーマで台湾ツアーの企画・造成を後押ししている。その一つが台湾観光再開後にスタートダッシュを切れるよう、ツアー企画をサポートする支援策。待ちに待った台湾旅行にすぐにも出かけてもらえるよう、台湾観光の解禁後にいち早くツアーの販売を行う旅行会社を支援するもの。台湾観光が再開されたら、各旅行会社から販売されるスタートダッシュ企画をチェックしよう。

### ワクワク感謝の旅 日本と台湾の絆を再確認

日本と台湾はこれまでも様々な困難に直面したときに協力し合い、助け合ってきた。東日本大震災のときに台湾から日本に多額の寄付や様々な支援が行われたことをご記憶の方も多いだろう。今回のコロナ禍では日本から台湾に延べ420万回分のワクチンが贈呈された。

「ワクワク感謝の旅」は、日本から台湾に寄せられたワクチンによる温かい支援への感謝の気持ちを伝えようと、ツアー企画を支援するもの。日本と台湾の絆の深さを感じられる企画だ。



台湾から日本へ伝えたい「ありがとう」(写真提供:中央通訊社)

### 天燈上げで癒しの旅を 願いを託して空へ飛ばそう

台湾では天燈(ランタン)に思いの願いごとを書いて空に飛ばす天燈上げは、幸せを祈る象徴、癒しのイベントとして人気。台湾観光局では天燈上げによる「祈福の旅」のツアー造成も支援している。2年以上に及ぶコロナ禍では日常生活が激変し、様々な我慢を強いられてきた。ようやく日常が戻りつつあることに感謝し、普通の日常が続くことを願わずにはいられない。台湾観光局ではそんな願いを昇華させ、癒しを感じてもらおうと、台湾での天燈上げツアーを支援している。



天燈上げ(写真提供:新北市政府旅遊局)

### どこか懐かしい台湾の鉄道で 地方へ足を伸ばし「深台湾」体験を

コロナ後の日台路線は台北線から再開されていくことが予想されるが、台湾の魅力は台北だけでは味わい尽くせない。地方でしか味わえないグルメ、風情、人情味がある。そこで台湾観光局では、鉄道の旅を楽しみながら、台湾の地方を訪れる旅行商品の造成販売も後押ししている。

昔懐かしい風情を残す台湾のローカル線でぶらりと足を伸ばしてもいいし、台湾高速鉄道を使って南から北まで台湾旅行を楽しむのもいい。鉄道の旅で台湾各地の魅力に出会おう。



6大国際魅力スポットにも選ばれている阿里山鉄道(嘉義)。スイッチバックを採用した登山鉄道で、全線の海拔落差は2000mを超える。

### 日台双方向交流750万人へ成長めざす 日台観光サミットで「桃園宣言」採択

日台双方向交流の拡大をめざし、官民関係者が一堂に会する「日台観光サミット」が9月1日~4日に台湾の桃園市で開催され、「桃園宣言」が採択された。日台観光サミットの開催は2年半ぶり。「桃園宣言」では、日台双方の緊密な連携・協力により、持続可能な観光かつ低炭素観光を実践しつつ、コロナ禍前の日台双方向交流700万人を早期に回復させるとともに、750万人規模まで成長させることを目標に掲げた。

今後はリカバリー策として、日台航空路線の就航地点をコロナ前の規模まで早期に回復させることに注力する。旅行会社は日台双方の政府に対し、リアルタイムな感染状況に応じて煩雑な手続きを簡素化するよう働きかけるほか、継続的に修学旅行を推進する。また、地域の観光振興を深めることで質の高い旅行商品を提供し、安心・安全な旅行環境を整備していくことを確認した。

日台観光サミットの開催を受けて、台湾観光局東京事務所の鄭憶萍所長は、台湾はコロナ後の海外旅行先の人気ランキング1位に選ばれるなど、台湾の安心安全は広く肯定されている点を踏まえ、今後は台湾観光の再開に向けてオンラインやリアルイベントで台湾の魅力を広く訴求していく考えを示した。まずは台湾ロスの方に台湾旅行を満喫してもらうほか、旅行会社による6大国際魅力スポットや観光圏を組み込んだ商品造成を支援していく。5年連続1位の台湾への修学旅行については、日本の自治体・旅行者と協力し、青少年交流を早期にコロナ前の水準まで戻すよう精力的に励みたいとコメントしている。

今回のサミットは日本の愛知県で開催される。



本保参与と王部長(大臣)



山西会長と張局長



志村理事長と葉会長



### 台湾グルメを満喫しよう!

### ミシュランガイドに 台南・高雄登場

レストランの格付けを行うミシュランは8月30日、「ミシュランガイド台北・台中・台南・高雄2022」を発行した。台北と台中に加えて、今年は新たに台南と高雄のレストランも加わり、台湾南部のレストランも初めて星を獲得した。ミシュランで星を獲得したのは計38軒となった。また、手頃な価格で美味しいグルメが楽しめる「ピブグルマン2022」には計141軒のレストランが選ばれた。141軒の内訳は、台北市57軒、台中市37軒、台南市27軒、高雄市20軒。ピブグルマンでは、カジュアルなレストランや夜市などの名物料理、庶民派グルメまで幅広くラインナップされている。グルメは旅行の大きな楽しみのひとつ。台湾旅行ではとっておき台湾グルメを堪能しよう。

グルメは旅行の大きな楽しみのひとつ。台湾旅行ではとっておき台湾グルメを堪能しよう。



牛稼莊  
台中



八寶杉圓仔惠(國華街)  
台南



老新台菜(九如二路)  
高雄

# 台湾各地の「観光圏」でディープな旅を

台湾観光局では、台湾各地で「観光圏」の整備に取り組んでいる。観光圏とは、国家風景区管理処が管理するエリアをサークルになぞらえて、そのサークル内で観光、グルメ、宿泊、ショッピングなどが連携して地域の観光促進を図るもの。観光圏のエリア一帯で周遊観光や滞在型観光を進め、よりディープな台湾の魅力を感じてもらいたい考えだ。

## 北部の「大東北角観光サークル」 九份、十分、野柳など見どころ満載

台北から車や列車で1時間弱とアクセスもよい「大東北角観光サークル」。日本人観光客にも人気の九份、天燈上げで有名な十分、「クイーンズヘッド」でおなじみの野柳地質公園など、見どころが満載。人気スポットと合わせて隠れたスポットを訪れることでディープな台湾が楽しめる。

平溪エリアは天燈上げのスポットとして人気。十分だけでなく、平溪線の終着駅である菁桐駅でも線路で天燈上げを楽しむことができる。菁桐駅の近くにあるデジタル技術を活用した「菁桐デジタル天燈館」も注目スポットだ。

平溪駅のそばにある平溪老街や、菁桐駅の周辺はかつて炭坑で栄えた街で、ノスタルジックな街並みが散策できる。十分駅近くにある十分瀑布への道も、つり橋や遊歩道などが整えられており、その奥に十分瀑布が現れる。緑の木々とマイナスイオンに癒される。レトロな街並みで日本人にも人気の九份は、日中に訪れることが多いが、ライトアップされた夜の九份も幻想的で美しい。

自然に触れるなら野柳地質公園がおすすめ。野柳地質公園は「クイーンズヘッド」や「キノコ岩」などの奇岩が楽しめるジオパーク。遊歩道が整備されており、海岸沿いの奇岩絶壁を堪能できる。



九份の夜景



野柳地質公園の「クイーンズヘッド」



十分瀑布



菁桐デジタル天燈館



菁桐駅周辺のノスタルジックな街並み

## 6大国際魅力スポットをご紹介します！

台湾観光局では、台湾を訪れる外国人旅行者におすすめの6大国際魅力スポットも選定している。台湾各地から選りすぐりの魅力的なスポットが選ばれており、ここでは代表的なおすすめ観光スポットをご紹介します。



### 日月潭（南投県）

台湾を代表するレイクリゾート。美しい湖と山々に囲まれた自然の景観に癒される。サイクリングスポットとしても人気。近くには原住民の生活に触れられる緋寒楼で有名なテーマパークの九族文化村もある。



### 国立伝統芸術センター（宜蘭県）

台湾各地の伝統的建築物を集めて造られた国立伝統芸術センター。煉瓦造りの建物が立ち並ぶ景観・ショッピングエリアや、演劇、音楽、舞踏、工芸、雑伎など、台湾の芸術や文化に触れられるエリアがある。

## 台湾ランタンフェスティバルin台北 2023年2月5日～19日、世界に誇る光の祭典

「台湾ランタンフェスティバル」は春節明けの元宵節に開かれる恒例の一大イベント。第34回目となる2023年は「台湾ランタンフェスティバル in 台北」として、23年ぶりに台北市で開催される。台湾最大の都市である台北市とタッグを組み、「世界に誇る光の祭典」が盛大に開催される。

台湾観光局のメインランタンが点灯するのは2月5日～19日までの約2週間。会場は台湾のランドマーク「台北101」周辺から、美しい街路樹の街並みが続く「仁愛路」一帯。メインランタンやメインステージは国父紀念館エリアに設置される。

毎年日本から多数の自治体もランタンフェスティバルに出展しており、2023年の出展自治体の顔ぶれも楽しみなところ。



2022年のメインランタン



青森県



名古屋市



福岡県美濃市



### 三仙台（台東県）

三仙人が岩の上で休んだとの伝説がある大岩礁。元は一つの岬だったが海水の浸食で離島となった。島へのアーチ橋や遊歩道が整備され、珍しい植物生態も。



### 七美嶼（澎湖県）

澎湖島の最南端にある七美嶼は、ダブルハートの「石滬」で有名。石滬は、玄武岩と珊瑚礁で作られた伝統的な石垣で魚を捕る漁法。その形状が2つのハートが重なった形になっており、あまりに可愛いと人気に。



9月22日より台湾小籠包が名物の京鼎楼レストランとコラボキャンペーンを開始

## コラボ企画も満載！ 異業種コラボで台湾フェア

台湾観光局では幅広い業界との連携によるコラボレーション企画も続々と展開する。台湾ミシュランでピブグルマンに選出され、日本でも15店舗を展開する人気店の京鼎楼をはじめ、日本のホテルやコンビニエンスストア、ファミリーレストランとコラボレーションした台湾フェアが展開される。

また、定期便を就航している成田国際空港や中部国際空港をはじめ、青森、仙台、茨城、静岡などの地方空港や地方自治体と連携した台湾誘客イベントを各地で開催。Wi-Fiレンタルのテレコムスクエアや外貨両替のトラベレックスとコラボしたキャンペーンなども展開して台湾観光をPRしていく予定。

### 日本で台湾を感じよう

日本でも台湾イベント目白押し！ 台湾観光局では台湾観光再開に備えて日本での活動を強化している。

#### ■台湾観光説明会 in 東京

日時：9月21日

招待者：主要旅行会社、台湾観光誘致団、航空会社等、日台観光関係者が参集（関係者のみ）

#### ■台湾観光ロードショー

日時：9月23日～25日 場所：池袋駅南口地下 東武百貨店前イベントスペース

内容：台湾観光プロモーション、航空券などが当たるスタンプラリー＆台湾ガチャ、台湾物産・グッズ販売ほか

#### ■オンライン台湾観光イベント

「あなたはどっち?! いくたび、ふたたび台湾。」サイト

日時：9月16日～11月15日

内容：「あなたはどっち?! いくたび、ふたたび台湾。」ゲーム感覚で台湾の観光情報を収集しながらオンラインで台湾旅行を体験。チャレンジ成功者に抽選で航空券などプレゼント



#### ■ツーリズムEXPOジャパン「台湾観光パビリオン」出展

日時：9月22日～25日 会場：ツーリズムEXPOジャパン2022

内容：台湾観光局、台湾観光協会、旅行会社、ホテル、観光施設など、台湾から観光代表団が来日し、台湾観光再開に向けて精力的にPRを実施

主なイベント

- 9月22日：台湾観光パビリオンの開幕式、代表者らによる天燈筆入れの儀
- 会期中：メガスクリーンで台湾パノラマ上映
- 台湾観光スタンプラリー＆台湾ガチャ：台湾観光パビリオンなど8カ所のポイントで6種類のスタンプを集めて台湾ガチャに挑戦、総勢1000名様に素敵なプレゼント
- 台湾DIY体験：ミニランタン作り、台湾観光スクラッチカード
- 9月24日～25日：台湾伝統人形劇、台湾原住民舞踊（予定）



# エバー航空で台湾へ、そして世界へ

## 成田／関空／福岡から台北へ直行便 10月からさらに増便、成田・関空線はデイリー化

エバー航空は台湾初の民間航空会社として1989年に設立され、2013年にスターアライアンスに加盟、2016年に英スカイトラックス社より台湾の航空会社として初めて世界最高評価の5つ星を獲得するなど、台湾の大手航空会社に成長した。エバー航空ではアフターコロナに向けて国際線の復便、新規路線の就航を加速さ

せている。日本路線は現在、成田／関空／福岡空港から台北(桃園)空港への直行便を運航しており、10月以降は成田-台北線を週7便、関空-台北線を週7便へデイリー化するほか、福岡-台北線を週4便にさらに増便する。待ちに待った台湾への旅は、ぜひエバー航空で。

エバー航空 日本-台湾路線運航スケジュール (2022年10月1日~10月29日)

	便名	出発地	出発時刻	→	到着時刻	到着地	運航日
成田-台北線	BR197	成田	14:15	→	16:55	台北	デイリー
	BR198	台北	08:50	→	13:15	成田	
関西-台北線	BR131	関西	13:10	→	15:05	台北	デイリー
	BR132	台北	08:30	→	12:10	関西	
福岡-台北線	BR105	福岡	12:20	→	13:45	台北	火・水・金・日
	BR106	台北	08:10	→	11:20	福岡	

※時刻はすべて現地時間。最新のフライト情報はウェブサイト(<https://www.evaair.com>)より  
 ※使用機材 成田-台北線：B787-9 (月・火・木・金・土・日、10/6のみB787-10) / B787-10 (水)  
 関西-台北線：A333 (月・火・木・土) / B787-9 (水・金・日)  
 福岡-台北線：B787-9

## 期待以上のビジネスクラス体験 プライベート空間で極上の旅を

エバー航空のビジネスクラス「ロイヤルローレルクラス」は、日本路線の主力機材であるB787型機などで提供されている。リクライニング式のフルフラットシートには、プライベートパネルと収納キャビネットが完備され、より快適でプ

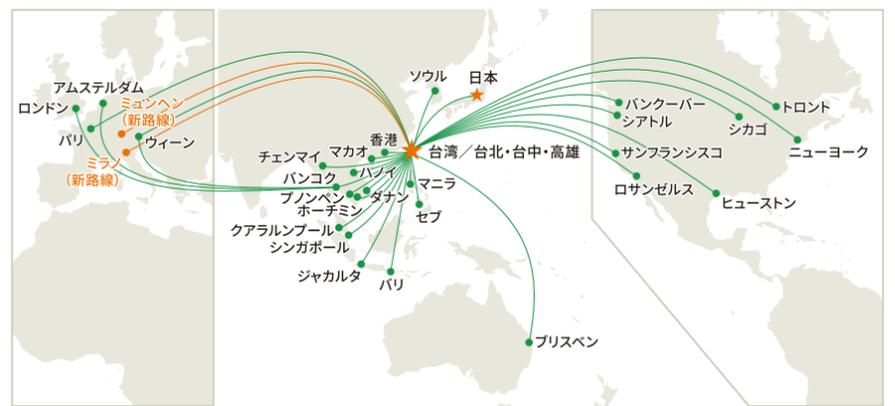
ライベートな空の旅を楽しめる。極上の機内食、自慢のワインセレクションもエバー航空ならではの。オンラインで事前にメインディッシュや限定メニューの予約も可能だ。

### ロイヤルローレルクラスの主な設備

- フルフラットシート
- 充実の機内エンターテインメントシステム
- 最新のノイズキャンセリングヘッドフォン
- 超大型の折りたたみテーブル
- 110V電源ソケット、USB充電ポート
- 機内Wi-Fiサービス



## 台湾から世界60都市以上へ接続 台北-ミラノ / ミュンヘン線就航へ



エバー航空は、台湾から世界60都市以上へ接続している。秋には25年ぶりとなるヨーロッパの新路線として、ミラノ、ミュンヘンへの直行便が就航。台北-ミラノ線は10月25日から週2便、台北-ミュンヘン線は11月3日より週4便で就航する。

スターアライアンスメンバーのエバー航空なら、パートナーエアラインを通じて世界190カ国以上と結ばれており、豊富なネットワークは最大の魅力。日本から台湾へ、そして世界へ、エバー航空で飛び立とう。



右写真提供：ミュンヘン空港

## ESG、SDGsなどの取組加速

エバー航空は、2022年2月に台湾の航空会社として初めてデジタル機内誌『EVA e-Library』を導入。2017年より導入しているカーボンオフセットプログラムでは、旅程に応じた炭素排出量を寄付金で相殺できる『ゼロカーボントラベル』を推進中。エバー航空は今後もESG、SDGsなどの取組みによって持続可能な世界に貢献していく。



### 世界に認められた安全性

エバー航空は1989年の創立以来死亡事故、航空機の全損事故を一度も起こしておらず、安全性への高い評価を得ている。エバー航空は国際航空運送協会 (IATA) の安全監査プログラムのIOSA認証を台湾の航空会社として初めて取得するなど、その高い安全性は世界で認められている。



## ユナイテッド航空、成田ーサイパン線就航 初便行事を開催、搭乗者に記念品プレゼント



搭乗ゲート前で行われたUAL成田ーサイパン線の就航記念テープカット。左3人目から当該便担当イロール・リー機長、マリアナ政府観光局ヴィオラ・アレブヨ理事長、北マリアナ政府ラルフ・トーレス知事、UAL高橋亨日本・ミクロネシア地区営業担当支社長、UALジミー武田日本地区空港オペレーション統括本部長

ユナイテッド航空(UAL)は9月1日から成田ーサイパン線に就航した。就航を記念して、成田空港第1ターミナルビル35番ゲート前で、記念のテープカットが行われた。テープカットには北マリアナ政府のラルフ・トーレス知事、マリアナ政府観光局のヴィオラ・アレブヨ理事長、ユナイテッド航空の高橋亨日本・ミクロネシア地区営業担当支社長などが参加し、搭乗者とともに初便行事を祝った。

高橋支社長は、「サイパンには素晴らしいダイビングスポットがあり、魅力的なゴルフコースがある。ゴルフは海や風を体を感じ、青い空と青い海を見ながらプレーできる。また、サイパンは自然が豊かで、ボードウォッチング、ダイビング、シュノーケリングとアクティビティも多様で、ビーチも美しく、サイパンの魅力は日本の観光客に紹介し、新しいサイパンのルートを成功させたい」と語った。

初便搭乗者全員に、成田ーサイパン線の就航を記念して、スーツケースのベルト、タグ、サイパンのガイドブック、成田ーサイパン線の就航が焼印された記念のクッキーなどの記念品が贈られた。

成田ーサイパン線は9月1日から週3便、成田発は火・木・日曜日、サイパン発は月・水・金曜日に運航する。機材はボーイング737-800機で、座席はビジネスクラス16席、エコノミークラス150席の計166席。エコノミークラスのうち42席がエコノミープラスで、3クラス仕様となる。9月1日の初便の搭乗客は71名、搭乗率は42.8%だった。

運航スケジュールは、UA825便が成田午後9時25分発ーサイパン着午前2時(翌日)着、UA824便がサイパン午前7時発ー成田午前9時35分着。初便は定刻より早く午後9時14分に出発し、サイパンには翌日の午前1時43分に到着した。

サイパン国際空港に到着後は、日本からの直行便の再就航ということで、地元は歓迎一色に包まれた。ミクロネシアのメディ

アも取材に訪れ、ユナイテッド航空の成田ーサイパン直行便の就航による日本人旅行者のサイパン来訪に対する関心の高さを伺った。

### マリアナ政観、豊富な特典 50米ドルクーポン、バス無料

マリアナ政府観光局はユナイテッド航空の成田ーサイパン線利用者を対象に、「マリアナケーション超得キャンペーン」を実施する。買物や食事、アクティビティに利用できる50米ドルクーポンを進呈。また、空港ーホテル間を運行するシャトルバスが無料で利用できる。

### ゴルフ、絶景ダイビングも無料

さらに、ゴルフ2ラウンドとダイビング2ダイブを各無料とする特典を10月31日までの期間限定で追加する。

ゴルフはサイパンの3つのゴルフコース、キングフィッシャーゴルフリンクス、コーラルオーシャンリゾートサイパン、ラオラベイゴルフ&リゾートを2ラウンド無料でプレーできる特典。すべてのゴルフ場が海沿いのコースを無料で体験できる。

ダイビングは、サイパン、テニアン、ロタのファンダイビングが2ダイブ無料になる特典。マリアナには世界三大ケープポイントの一つで、青の洞窟のサイパン「グロット」、透明度が高く、世界各国からダイバーが訪れるロタ島の「ロタホール」などのマリアナの絶景ダイビングポイントがある。

今回の追加特典で、UAL成田ーサイパン線利用者には、(1) 空港ー主要ホテル間の送迎シャトルバス無料 (2) 現地利用の50ドルクーポンプレゼント (3) サイパン島のゴルフ2ラウンド無料 (4) マリアナのダイビング2ダイブ無料のサービスが提供される。

## 現地で成田ーサイパン就航記念祝賀会開催 トーレス知事、UALに謝意、観光再活性化を



就航記念レセプションで、左からラルフ・トーレス知事夫妻、シノハラUALアジア太平洋地区空港運用マネージング・ディレクター、高橋UAL日本・ミクロネシア地区営業担当支社長

9月1日にユナイテッド航空(UAL)が成田ーサイパン線に就航したことを記念して、翌2日には北マリアナ諸島自治連邦区政府がUAL初便でサイパンを訪問した日本人旅行者や関係者を招待して、就航記念レセプションをハイアットリージェンシーサイパンで開催した。

主催者を代表してラルフ・トーレス知事は、日本とマリアナの歴史・文化の深さと強い絆について言及し、日本マーケットに対してマリアナ観光の魅力を訴求するとともに、日本人旅行者のマリアナ再訪により日本とマリアナの観光再活性化を図る方針を示した。

トーレス知事はユナイテッド航空が成田ーサイパン線直行便を就航したことに感謝の意を表し、サミュエル・V・シノハラ・アジア太平洋地区空港運用マネージング・ディレクター、高橋亨日本・ミクロネシア地区営業担当支社長を表彰した。

トーレス知事は、日本人旅行者の再訪問の課題について、日本人旅行者がマリアナを再評価できるアクティビティの提供が重要と指摘した。

### 日本にマリアナの伝統・文化紹介 地域と日本人のカルチャー共有を

就航記念レセプションの後に取材に応じたトーレス知事は、日本人観光客の誘致促進策として、マリアナの歴史・伝統・文化を日本マーケットに紹介していく方針を示した。ココナッツのウィービング、カヌーの伝統航海、マリアナ料理、伝統ダンスなどを紹介し、地域住民の生活向上と観光促進の両立を図っていく。

トーレス知事は、日本人旅行者に対して、マリアナに深く関わり合うために、アクティビティやナイトマーケットなども増やし、カルチャーを共有することを期待した。

トーレス知事は、「マリアナの地域住民

と日本人旅行者が、アクティビティやナイト・マーケットなどを通じて、マリアナの文化を共有できるようにしたい」と語った。

日本人旅行者は質の高い旅行を求める傾向にあるが、トーレス知事はクラウンプラザホテルが10月末の開業を予定しており、今後に期待した。



インタビューに答える北マリアナ諸島自治連邦区のラルフ・トーレス知事

「旅行者が求めるものは時代とともに変化する。マリアナがワールドクラスのdestinationになるためには、インターナショナルブランドのホテルが必要になる。そのサービス、アコモデーション、ショッピング、アクティビティが求められる。

トーレス知事は、マリアナと日本の古くからの関係について指摘し、「ファミリーネームに日本名が付いている人々があり、その意味でも日本との関係は深い」と強調した。マリアナの財産でもある美しい自然を日本人旅行者とともに維持していくことを強調した。

## 出展者募集中！ 9月末までのお申込みで早期割引実施中

### 第2回 日本観光ショーケース in 大阪・関西 2023年3月24日(金)~3月26日(日)

主催：日本観光ショーケース実行委員会(株式会社マイナビほか) 特別協力：大阪観光局 場所：インテックス大阪

このイベントは、日本観光を活性化させる最新サービス・情報が一堂に集まる、日本観光に特化した展示会です。インバウンド再開の足掛かりとして、国内観光の活性化、海外バイヤーとの国際的なマッチングを創出することを目的としています。独自の商談予約機能で、観光地と事業者の新しいビジネスチャンスの促進を図ります。

出展に関するお問い合わせ

日本観光ショーケース実行委員会 事務局 メール info@japan-ts.jp

または <https://japan-ts.jp/jp/exhibitor> よりお問い合わせください。



ツーリズムEXPOジャパン2022に「日本観光ショーケース」として出展いたします。

本イベントに関するご案内や出展受付も行ってまいりますので、ぜひブースまでご来場ください!

# 日常を取り戻すマレーシア ～コロナ禍後初めての研修旅行も実施～

マレーシアでは新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着き、各種規制が急速に緩和されている。これに伴いマレーシアはコロナ禍前の日常を急速に取り戻している。海外から訪れる観光客にとって、再びあの魅力溢れるマレーシアが戻って来た。



ペナン・パトゥフェリンビーチ

## ワクチン接種に関係なく 入国規制を撤廃

マレーシア保健省は新型コロナウイルス感染症に関わる入国規制を大きく緩和。8月1日からはワクチン接種の有無にかかわらず全ての渡航者に対して、コロナ対策アプリ「MySejathera(マイセジャテラ)」上の手続きにより発行するトラベラーズカードの取得を不要とし、マレーシア入国後の抗原検査や入国後隔離といった措置もなくなった。これによりコロナ関連の入国規制はすべてなくなり、コロナ禍前と同様の簡便さでマレーシアに入国できるようになった。

ただし「MySejathera」については、店舗や施設、ホテル等の入店・入館時に提示を求められる場合もあるため、引き続きアプリのダウンロードと登録が推奨されている。



## ホテルのブッフェ朝食も再開

8月第3週にはマレーシア政府観光局がコロナ禍後初めての日本からの研修旅行を実施。旅行会社の担当者が現地を視察した。マレーシア政府観光局東京支局の同行スタッフによると、マレーシア現地の街の様子はコロナ禍前に戻っており、人々のマスク着用率は約80%と高く感染防止意識は高いものの、日常の暮らしは平常そのもの。飲食店やショッピングセンターなどの賑わいも戻り、観

光地は海外客がまだ本格回復していないため以前より空いているものの賑わいが戻りつつある。

ホテルではブッフスタイルの朝食が再開され、飲食店では座席数の制限やアクリル板のパーテーションがなくなり、屋台の利用者の様子や賑わいも以前の姿に戻った。

またホテルやショッピングセンターで「MySejathera」の提示が求められることもほぼなく研修旅行期間中に1回だけ提示を求められたケースがあったという。

## コロナ渦中に新たな観光スポットも

むしろコロナ禍前より良くなったのがマリン・リゾートの環境だ。たとえば今回の研修旅行で訪れたペナン島やランカウイ島では、海が以前より透明度が増し美しくなり、海水浴客の減少により静かに寛げるビーチ環境が増えた面もあるという。またクアラルンプール近郊の手軽な観光スポットとしていつでも多くの観光客で賑わっていたバツ洞窟なども、現在はまだ海外からの観光客が少なく、ゆったり観光できる穴場スポットになっているという。

コロナ渦中に新たに誕生した人気観光スポットもある。たとえばクアラルンプールの人気観光スポットの一つであるツインタワーがあるKLCC周辺では、道路を隔てて隣接するカンボンバル地区とKLCCエリアを車道上でつなぐ約70mの歩行者専用陸橋「サロマリンクブリッジ



サロマリンクブリッジ

(Saloma Link Bridge)」が20年にオープン。夜になると、その独特なデザインの外観がカラフルにライトアップされ、映える写真の絶好の撮影スポットとなっている

## ペナンやランカウイも進化中

アフターコロナに期待される観光素材も少なくない。たとえばペナン島のペナン・ヒル。海拔約800mのこの山の頂上周辺には世界最古ともされる熱帯雨林が広



ザ・ハビタット・ペナン

がり、豊かな生態系を有すると同時に持続可能な経済活動を進めるモデル地域として選定されるユネスコエコパーク(生物圏保存地域)に昨年登録されている。このエリアにあるThe Habitat Penang Hillはエコツーリズムに最適な施設で、全長1.6kmのトレイルが整備され、途中には樹上から木々を観察できる長さ230mのキャノピーウォーク「LANGUR WAY」や、高さ13mから熱帯雨林のパノラマを眺められる円形構造のツリートップウォーク「Curtis Crest」がある。

ランカウイ島は島を代表するホテルの一つ「The Datar Langkawi」がエコツーリズムに活用できる各種SDGsプログラムの開発に力を注ぐ。ホテルは珊瑚の保護施設も運営し傷ついたり弱ったりした珊瑚を保護して状態が良くなれば海に戻す活動など約20のプログラムを実施。リゾートではホテルで使用した水をろ過して再利用しハーブなどを育てるオーガニックガーデンも運営している。さらに廃棄ワインボトルなどを使って建てた体験施設「The Lab」では、ホテル内で出た廃材を使用し、オーガニックな石鹸やキャンドル作りを体験できるアップサイクルプログラムも用意している。



## 航空関連

## AVIATION NEWS

### ANA、10月以降ホノルル シンガポール、シドニー線増便

全日本空輸(ANA)は国際線の運航計画を一部見直す。ハワイ路線については羽田・成田-ホノルル線を10・11月に増便する。10月20日から羽田-シンガポール線を増便するほか、年末年始には羽田-シドニー線を増便する。

羽田-ホノルル線は10月30日~11月30日まで現行の週5便から週7便に増便する。成田-ホノルル線は10月30日~11月30日まで週2便から週3便に増便する。

羽田-シンガポール線についてはNH843/842便を10月20日から週7便で運航する。さらに羽田-シドニー線については12月25日、27日、2023年1月3日、6日、9日、13日の各日程においてNH889/890便の運航を行う。



### JAL、10月30日から 羽田-シカゴ線をデイリー化

日本航空(JAL)は10月30日から来年1月31日の国際線の路線便数計画を決定した。羽田-シカゴ線のJL10・9便は10月30日からデイリーで運航。関西-ロサンゼルス線のJL60・69便は、10月30日から11月30日までJL60便を月曜に運航し、JL69便を木・土曜に運航する。12月以降は月・木・土曜往復へ増便する。

東南アジア線では、成田-ジャカルタ線のJL725・726便とJL729・720便を毎日運航してダブルデイリーとする。羽田-デリー線は10月30日からJL39・30便を増便して毎日運航する。

10月1日~29日の台北・ソウル線のうち、羽田-台北(松山)線のJL97・98便は木曜以外の週6便、成田-台北(桃園)線の成田発JL809便は木曜運航、桃園発JL802便は木・土曜運航とする。羽田-ソウル(金浦)線はJL91・92便をデイリーで運航する。



### カンタス航空、9月12日から 羽田-シドニーを週3往復

カンタス航空は9月12日から日本-豪州線直行便の運航を再開した。同社の日本-豪州線はコロナ禍の影響で2年以上にわたり運休していた。羽田-シドニー線は週3往復便の運航を計画。投入予定機材はフルフラットビジネススイートを搭載したA330となる。

カンタス航空によると、今回の運航再開は、日本の入国制限の緩和を受けたもの。日本人の親族訪問、ビジネスおよび休暇で豪州へ渡航しやすくなったためとしている。



### タイ国際航空、10月30日から 福岡・札幌線の運航再開

タイ国際航空(THA)は2022/23冬季ス

ケジュール(10月30日~23年3月25日)の運航計画を決定した。福岡-バンコク線、札幌-バンコク線をそれぞれデイリー運航で再開するほか、中部-バンコク線は週5便から週7便に増便する。

福岡-バンコク線の運航は約2年7カ月ぶり。使用機材はエアバスA330-300型機、座席数は294席。札幌-バンコク線の運航は約2年9カ月ぶり。使用機材はB787-8型機、座席数は256席。増便する中部-バンコク線の使用機材はエアバスA350-900型機、座席数は321席。

このほか、成田-バンコク線は毎日2便運航、関西-バンコク線は午前発のTG623便の毎日運航を継続。7月から運航再開した羽田-バンコク線も午前発のTG863便の毎日運航を継続する。



### エバー航空、10月1日より 成田/関空-台北線をデイリー化

エバー航空は10月1日より日本-台湾路線をさらに増便する。成田-台北線と関空-台北線については、現行の週4便から週7便へとデイリー化。福岡-台北線については10月4日より週3便から週4便へ増便する。さらなる増便によって日台間の相互交流需要の早期回復を後押しする。



### スクート、9月9日に 「ピカチュウジェット」初投入

スクートは、人気ゲーム「ポケットモンスター(ポケモン)」のキャラクターがデザインされた特別塗装機「ピカチュウジェットTR」の運航を開始した。9月9日の成田発のTR809便には201人が搭乗した。成田-シンガポール線での次のピカチュウジェットは10月19日に運航が予定されている。

スクートは成田-シンガポール直行便の運航を8月から開始。9月1日からは関西-シンガポール線をデイリーで再開したほか、11月から新千歳-シンガポール線の運航も再開する。



### 大韓航空、10月13日から 成田-釜山線を週7便に

大韓航空(KAL)は10月13日から成田-釜山線を現在の週3便から週7便のデイリー運航に増便する。秋以降に釜山で大型イベントの開催が予定されており、需要の高まりが予想されることから、運航本数を増やすことを決めた。成田-釜山線は9月2日から週3便(水・金・日)で運航を再開し、再開後1カ月余りで増便に踏み切る。使用機材はB737-8型機、座席数は計146席。



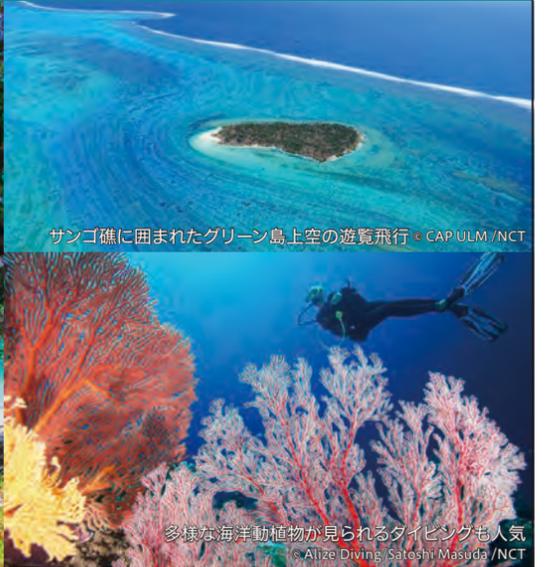
ニューカレドニア観光局

ツーリズムEXPO特集

世界遺産のラグーン、そしてユニークな自然に囲まれて「天国に一番近い島」で満喫するフレンチシックなバケーション



ラグーンを望む美しいビーチをひとりにしめ。Tokyo/NCT



サンゴ礁に囲まれたグリーン島上空の遊覧飛行。CAP ULM/NCT

多様な海洋動物が見られるダイビングも人気。Alize Diving, Satoshi Masuda/NCT

南太平洋メラネシア地域に浮かぶニューカレドニア。グランドテール島を中心にいくつかの島々からなり、周りには世界遺産にも登録された全長1600キロの長大なラグーン(サンゴ礁)が続く。青く透き通った海、白砂のビーチに彩られ「天国に一番近い島」(商標登録済み)の別名にふさわしい絶景の中、リラックスして過ごせるリゾートアイランドだ。透明度抜群の海には、全世界の5%にあたる多様な海洋生物が観察され、また熱帯雨林などに覆われた大地には、太古の時代より維持された島固有の動植物が数千種類も見られる。また、フランス領ならではの食事のおいしさやシックな街並みが満喫できるのも大きな魅力で、ハネムーンやシニアの旅にも最適。この8月より入国規制はすべて撤廃され、以前と同じように自由にストレスのないリゾート滞在が可能になった。ベストシーズンは10月から4月。旅が自由になってきた今、まさに訪れたいデスティネーションといえる。



ヌメア NOUMÉA

優雅なホテルを拠点に多様に楽しめる、洗練された首都

ゆったりとした南太平洋の空気と、フレンチテイストの都市の活気を合わせもつ華やかな首都。ビーチ沿いには国際ブランドをはじめとする瀟灑なホテルが立ち並び、ビーチ遊びからダイビングなどのマリンスポーツ、そしてスパ体験まで、ラグジュアリーなリゾートライフを提供している。レストランでワインとともに食事を堪能し、マルシェ(朝市)をのぞき、ブティックが並ぶ中心街でショッピング...と、街歩きの魅力も尽きない。また海や自然、先住民文化などをテーマとした博物館や美術館など、文化施設が多いのも特徴。好みのスタイルで、多様な滞在が可能だ。近くに点在するメトル島やアメデ島など、離島への日帰りやショートステイなどを組み合わせる楽しみ方も人気だ。



ヌメアのダウンタウン © Masaaki Hojo/NCT

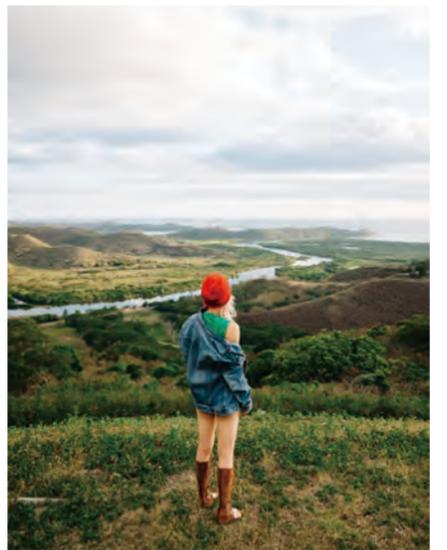


フレンチレストランをはじめカフェも充実 © Toko/NCT

西海岸 CÔTE OUEST

アウトドア派、ネイチャー派に大人気の自然地帯

ヌメアから北西に広がるこの一帯は、美しい海と豊かな自然、そして素朴な人々の暮らしに触れることができるエリア。プーライユ、コネなどの街をベースに、サンゴ礁に浮かぶグリーン島へのショートトリップ、海と山とを望む絶景ハイキング、乗馬、ゴルフなど、様々なアクティビティが満喫できる。希少な固有シダに覆われた「巨大シダの森公園」でのジャングル体験、完璧なハート型が見られるマングローブの森への遊覧飛行など、ユニークなツアーも人気だ。



海と山を堪能できるプーライユのハイキング © Genta Masuda/NCT



巨大シダの森公園 © NCT

イルデパン&ロワイヨテ諸島 ÎLES DE PINS & LES ÎLES LOYAUTÉ

さらに奥深いニューカレドニアを味わえる個性豊かな離島

イルデパンは、ニューカレドニアでも最も人気が高い島のひとつ。世界遺産のラグーンに囲まれ、先住民が「海の宝石箱」と称えるほどに美しい海の風景が広がっている。島内には、海水がせき止められてできたピッシンヌ・ナチュレル(天然プール)、白砂が広がるクトビーチ、島固有の南洋杉の森など、絵になる自然が満載だ。のどかな空気が漂うリゾートホテルも点在している。



イルデパンのピッシンヌ・ナチュレル © mi1\_moonstagram/NCT



美しいビーチが続くウベア島 © Dean Cropp - Access All Angles/NCT

また、より旅行者の少ない離島での濃密な滞在を求めるなら、グランドテール島の東に浮かぶロワイヨテ諸島へ。25キロもの白砂のビーチが続き、映画化もされた小説「天国にいちばん近い島」の舞台にもなったウベア島、ロワイヨテ諸島の中心で、ターコイズブルーの海とホワイトビーチが美しいリフー島、ジャングルに覆われ秘境感漂うマレ島。ユニークな文化を探究したい方、またニューカレドニアのリピーターにも興味深いエリアだ。

東海岸 CÔTE EST

大地のパワーが感じられる、ワイルドな秘境エリア

グランドテール島は中央を貫く山岳地帯によって分断され、東西で全く異なる地形や自然が広がっている。荒々しい渓谷やニューカレドニア最高峰のパニエ山(1628m)など、よりワイルドな景観が見られるのが東海岸の特徴だ。奇岩や長大な滝などを有し「神の宿る地」として崇められているヤンゲン、ニッケル鉱山を求め日本人移民が暮らした町ティオ、2重のバリアリーフが形成され、希少なダイビングスポットとして有名な町ポアンディミエなどを訪れてみたい。交通の便はあまりよくないため、現地旅行者の催行するツアーなどを利用するのがおすすめだ。



ポアンディミエ沖のティパラマ島周辺はダイビングパラダイス © Masaaki Hojo/NCT

ヤンゲンのタオの滝 © Marine Reveilhac/NCT

グランスッド GRAND SUD

ユニークな動植物に出会える、ダイナミックな赤土の大地

ニッケルや鉄などの鉱物を含んだ赤土の大地が広がり、独特の自然が体験できるエリア。特に広大なリビエルブルー州立公園は、ニューカレドニア固有の動植物が数多く見られる自然保護地区としてヨーロッパからの旅行者に人気が高い。ハイキングやマウンテンバイクでその自然地帯を探検することができ、樹齢1000年を超えるグランカオリの大木や、白い枯れ木が湖の中で朽ちずに残る「沈める森」など、ユニークな風景満載の豊かな森の中では、国のシンボルでもある固有種の鳥カゲーに出会うチャンスも。



リビエルブルー州立公園 © Monique CECCATO/NCT

入国規制が撤廃されたニューカレドニアで自由な旅を

ニューカレドニア観光局局長 ジュリー・ラロンド

ニューカレドニア政府は8月1日以降、旅行に関連するすべての規則を撤廃しました。これにより、皆様に私たちが誇る美しい島ニューカレドニアへ、また自由にお越しただけになりました。ぜひ「天国に一番近い島」を訪れてください。ユネスコ世界遺産に登録されている世界最大級のラグーンでダイビングをしたり、生物多様性の宝庫で素晴らしい発見をしたりと、様々な体験が待っています。新たな出会いや予想外の体験にワクワクし、生きていることの素晴らしさを感じるだけでもよいのです。

今年はニューカレドニアへ日本人移民が渡ってから130周年を迎えます。また、来年にはヌメアに日本総領事館が開設されます。これらは両国間の強い結びつきの象徴であり、この記念すべき機会に旅行再開の喜びを皆様と分かち合えることに感謝しています。日本から飛行機でわずか8時間半の別世界、ニューカレドニアへお越しください。日本の皆様の訪問を心よりお待ちしております！



観光局では新しい動画を公開していますので、ご覧ください。https://www.youtube.com/watch?v=tfTNNxLhkSs&t=3s



ニューカレドニア観光局

https://www.newcaledonia.travel/ja



最新現地情報やお得なキャンペーン情報を配信!

ニューカレドニア観光局

- アクセス: 成田国際空港から、エアカランが直行便を運航。所要時間は8時間半
■時差: ニューカレドニアは日本より2時間先行
■気候: 亜熱帯気候。海に入るには10~5月がベスト

SNSでも随時、最新情報配信! ぜひご覧ください。



# 古代と近代、そして大自然の絶妙な融合 発見に満ちた新たな旅行先

# サウジアラビア

新しい観光デスティネーションとして注目が集まるサウジアラビア。同国政府は2016年、石油への依存度を下げ、多様な経済活動を目指す戦略「ビジョン2030」を策定し、観光分野を重点産業と位置づけ、日本を含めた49カ国に対して観光ビザの発給を開始した。重点市場である日本に対しては、2021年に観光局を設置。コロナ禍でもオンラインでセミナーを開催するなど、観光情報の発信に力を注いできた。治安も良好で、まだ知られていない豊富な観光素材を秘めるサウジアラビア。その魅力を紹介する。



## リヤド 古代と近代が融合した政治・経済・文化の中心地

人口約700万人(2021年)の首都リヤドは、近代的で活気に満ちたメトロポリスだ。同時に中東らしいスークや古代の建築物など、何世紀にもわたって受け継がれてきた歴史を感じられる街でもある。食も充実しており、伝統的なサウジアラビアの人氣料理を現代風にアレンジして提供するレストランに加え、和食をはじめとした世界各国のレストランも増えている。アートや郊外でのアクティビティも注目を集め、名実ともに政治・経済・文化の中心地となっている。



### リヤドの街並

近代的な高層ビル群からは首都らしい雰囲気を感じられるが、地元のスーク(市場)や伝統的な建築物が多いエリアでは、古代にタイムスリップしたような気分がさせてくれる。

### サウジアラビア国立博物館

生命の起源からイスラム以前、そして現国家の誕生に至るまでの歴史を、3700点以上の展示を通じて学ぶことができる。花でいっぱいの庭園に囲まれた建物も印象的。

## ジェッダ 紅海に面した古代から続く港湾都市

紅海沿岸にあるサウジアラビア第二の都市ジェッダは、貿易商や芸術家、メッカに向かう巡礼者などが行き交い、様々な文化が集まった港湾都市だ。そのユニークな融合は、ジェッダのダイニングシーンにも反映されており、世界中の味を楽しめる数々の素晴らしいレストランがある。世界遺産に登録されている旧市街、開発が進むウォーターフロント、ダイビングやクルーズなどが楽しめる多彩なリゾートデスティネーションとして注目を集めている。



### アル・バラド

世界遺産のジェッダの旧市街「アル・バラド」。古い商人の家が並ぶエリアでは、古い建物を改修したカフェなどを楽しめる。またスパイスの香りがたどようスーク・アラウィ(市場)には地元の伝統工芸品や宝石などが並べられ、プレゼントやお土産を選ぶのに最適。

### ファハド王の噴水

ジェッダのランドマーク的存在がファハド王の噴水だ。飛行機のジェットエンジンで吹き上げる高さ312mに達する噴水は、遠く離れた場所からも見ることができる。ジェッダの夕景を彩る写真映えスポットだ。



### ディルイーヤ

「サウジアラビアの真珠」と呼ばれ、王国発祥の地でもある世界遺産のディルイーヤは、交易と巡礼のルートとして栄えてきた。現在は高級リゾート建設を含む新たな開発で主要な観光地へと変貌を遂げつつある。

### 世界の果て

リヤドから90kmの場所にあるトゥワイク崖地の一部は、ドラマチックな風景が広がることから「世界の果て」と呼ばれている。写真映えするスポットとしても人気だ。訪問の際はオープンしているかどうかを要確認。



### タイバット博物館

イスラム教以前の歴史やサウジアラビアの成り立ちなど、約2500年の歴史を持つジェッダについて詳しく学ぶことができる博物館。昔のジェッダの伝統的な建築を再現した建築も印象的。

### 紅海プロジェクトとクルーズ

ビーチリゾートが多い紅海沿岸は、MSCクルーズによる紅海クルーズが人気。航海上では飲酒ができるメリットもある。現在は、持続可能な観光開発の新たな基準を示す「紅海プロジェクト」として2023年までに16軒、3000室の新規ホテルが建設中。  
紅海プロジェクト: <https://www.theredsea.sa/en#>  
MSCクルーズ: <https://bit.ly/3pubqhd>

## アルウラ

### 遺跡やアウトドア体験を楽しめる 北西部の砂漠の町

北西部の砂漠地帯に位置するアルウラは、サウジアラビアで初めて世界遺産に登録されたヘグラ遺跡をはじめとする古代文明の面影や、エレファントロックに代表される自然が作り出した絶景など、文化・自然ともに見どころが多い。ハイキングや砂丘でのバギー体験などのアクティビティも盛んで、冒険好きな人の楽園とも言われている。グランピングなど、リラックスした旅にも対応可能だ。



### マダイン・サーレハ

古代都市マダイン・サーレハには、ほぼ完全な状態でナバタイ文明の墓石が残っているヘグラ遺跡がある。この遺跡は、サウジアラビアで初めて世界遺産に登録された考古遺跡でもある。



### 旧市街

12世紀からダマスカスとメッカの巡礼ルートの途中の街として栄えた場所。400軒のショップや900軒の住宅が旧市街を構成している。ショップやレストランを歩いて回るのも楽しいが、22人乗りの電気マイクロバスが午後4時から深夜まで運行している(無料)。

### グランピング体験も

アルウラには遺跡の他にハビタスのようなラグジュアリーなグランピング体験ができる宿泊施設やデザート(棗椰子)農園、柑橘農園がある。ラグジュアリーな素材からローカル体験ができる素材まであり、旅の体験を豊かにしてくれる。  
ハビタス: <https://www.ourhabitas.com/alula/>

### アクセスしやすくなった イスラム教の聖地メディナ

イスラム教の2大聖地であるメディナは、主要な巡礼地として数百万人の巡礼者が訪れる。ジェッダからは高速鉄道を使い約2時間でアクセス可能となった。ダル・アル・メディナ博物館、スーク、ウフド山など見どころも多い。



### 基本情報

日本の約6倍の国土面積を持ち、北部には雪が降る地域、西には世界屈指のダイビングスポットとして知られる紅海、東には世界最大の砂漠や3000メートルを超える山々が広がるなど、地域によって異なる魅力を持つ。6つのポイントがユネスコ世界遺産に登録されている。外国人女性旅行者のアバヤの着用義務がなくなり、国内の治安も良いので、女性でも安心して旅行することができる。



### 今後のイベント情報

#### 国際的なイベントが目白押し

ダカール・ラリーや日本・サウジアラビアeスポーツマッチ、LIVゴルフ・インビテショナルシリーズなど、国際的なイベントが数多く開催される。FIFAワールドカップ・カタール大会では、多くの人々がサウジアラビアに宿泊すると見られている。

#### LIVゴルフ・ジェッダ

2022年10月14~16日

#### ダカールラリー

2022年12月31日~2023年1月15日

#### PIFサウジ・インターナショナル・ゴルフ

2023年2月

#### サウジカップ(国際競馬大会)

2023年2月24~25日



### サウジアラビア政府観光局日本支局

住所: 東京都港区元赤坂1-2-7 赤坂Kタワー4階

TEL: 03-6890-3062

Web: <https://www.visitsaudi.com/ja>

サウジアラビア政府観光局では、旅行業界の皆様へ有益な情報を提供するため、9月からニュースレターを配信しました。ご希望の方は [info-jp@sta.gov.sa](mailto:info-jp@sta.gov.sa) まで「ニュースレター配信希望」と書いてお送りください。また、サウジアラビアの観光情報を集めたアプリも開発しております。ダウンロードのうえご利用ください。

